

私立大学情報教育協会

平成 29 年度 大学職員情報化研究講習会

基礎講習コース報告 A-3 班 チーム名：menaryu

1. テーマの決定

私たち A-3 班では「社会の発展に資する研究と人材の輩出」～学生が社会で生き抜く力を身につける～というテーマを選択してグループ討議をすることとした。様々な大学に共通する課題（教職員の事務手続きの煩雑さ）を ICT（AI や電子化）によって解決し、それによって発生した時間と資金を「教育・研究・社会貢献」に投資することを目標として位置づける。

2. 概要①～私たちが考えた大学の役割～

大学の役割とは何かについて意見を集約することとし、以下のとおりとなった。

【研究】社会に役立つ研究成果の発信 → 社会に貢献する

【教育】大学で得た知識を活用できる人材の輩出 → 社会で生き抜く力をつける。

前述の研究と教育の結果、「社会に役立つ人材」を育成することが大学の役割であると考えたが、「社会に役立つ人材」とは、大学の掲げる 3 つのポリシーを具現化した者であり、利益追求型、高バリューな人材を示す。個々の能力が異なるため、本人の能力を 100% 発揮させることでバリューの総和が高くなる。それに加えて、本人の希望や適性ととのマッチング・大学で得た知識・スキルを活かすことが重要となる。

3. 概要②～役割を果たすために、大学は何をしなければいけないのか～

様々な大学に共通する課題を ICT（AI や電子化）によって解決し、それによって発生した時間と資金を「教育・研究・社会貢献」に投資することが重要である。その投資先として設備投資、人材雇用・育成、地域連携、独自の奨学金、研究費などが挙げられる。

4. 大学の現状分析と解決策

【注目した課題・問題】

教職員・学生の各種手続き時において煩雑なことが多いことが問題であり、その解消が求められる。

- ① 教員の書類作成（外部資金獲得や資格審査）に手間が多い
- ② 法人の決裁（意思決定）に時間がかかる
- ③ 職員の業務引き継ぎが正確に行われない
- ④ 職員の学生対応（履修、試験、レポート）に時間が取られる

【役割を果たすために、どのような取り組みが必要なのだろうか？】

各種手続き書類を減少させて、手続き方法を簡略化する必要がある。

- ① ②→電子化（申請や入力）、書き方等について AI の活用
- ③ →AI（watson、siri 等）の使用
- ④ →AI（ペッパーくん）の使用

5. 問題解決に向けての職員の役割

【AI の 5 年後、10 年後の導入に向けて】

iPhone は近年で著しく使用者が増加した。しかし、今年でまだ 10 周年であることを考えると AI も 10 年後には導入・活用が当たり前になると予測されるので、現時点から導入に向けての準備をしていく必要がある。

① データ蓄積・整理

- ・ 課外活動等の学生生活全般に係るデータを集約するために現行システムの稼働の範囲を広げ、学籍・就職・教務システム等の一元管理を行う。
- ・ 提供サービスの選択と集中として、学生のニーズ調査のために簡易アンケートをとる。
- ・ 既存実施の各種アンケートとの連動性を持たせてデータ蓄積に反映させる。

② 業務内容の見直し

- ・ ICT 活用によってペーパーレスやウェブ会議導入などを通して、コスト削減を行い徹底して無駄を省く。印刷代や機械代、人件費等を削減することで業務の効率化も促進され、業務のあり方を見直す機会となる。

③ ICT・AI の知識を身につける

- ・ 既存の ICT を十分に使えていない職員が多い中で、ICT に関する研修等を行い、より身近なものとする事で個々の ICT 能力向上を図る。
- ・ 職員の ICT に関する資格取得等のスキルアップにより、担当部署により直接的、間接的はあるが、最終的に学生支援の質が向上する。

6. 仮想スケジュール～2028 年 AI 導入に向けて～

以上のことを念頭に置き、私たちのグループで検討した AI 導入に向けた今後の仮想スケジュールを立てることとした。

2018 年 4 月～ ICT・AI の知識会得 業務内容の見直し、整理 重点課題の設定

2020 年 4 月～ データ蓄積 予算案の設定 学内・学外広報 協力会社の設定

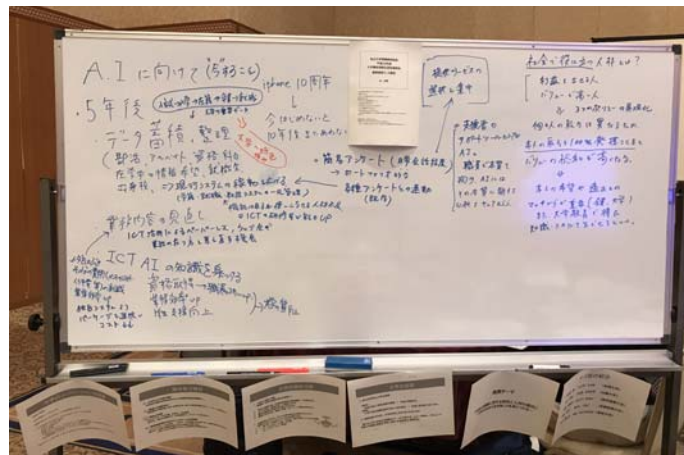
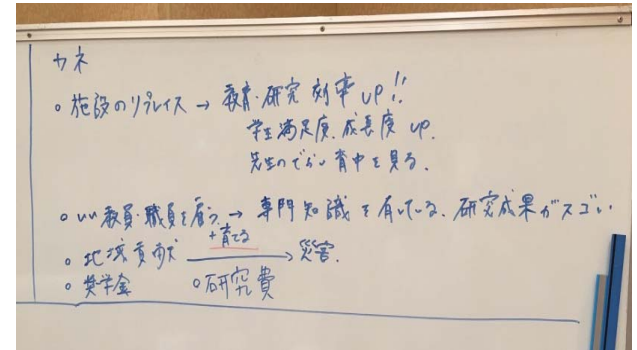
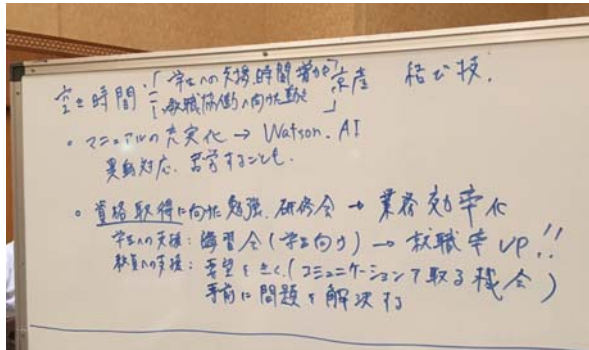
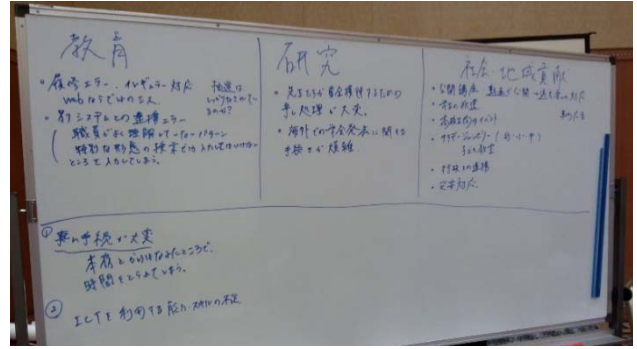
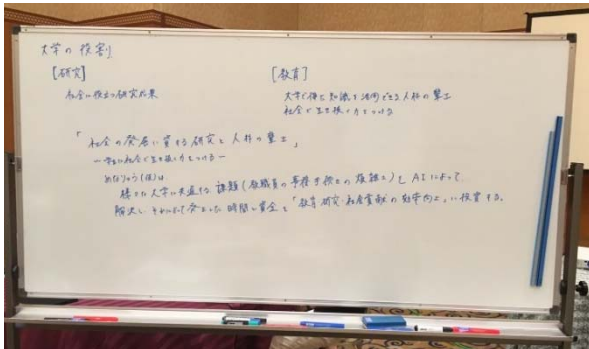
2027 年 4 月～ ユーザー向け説明会 規程等の整備

2028 年 4 月～ 本番環境稼働

7. グループ討議まとめ

今回の研修会のグループ討議では、ICTの現状、課題や今後のAIの動向等を議論していく中で、ICTやAI、設備等に全てを依存するのではなく、学生・教職員がいかにICTやAIを活用していくことが大事であるということに議論を深めることができた。また、議論の際も各法人の方針を理解した上での議論や中長期戦略を意識することでより実践的な議論となり、議論が活性化された。A班を担当していただいた明治大学山田委員を始め、私立大学情報教育協会の委員の方々の的確な指導がいただけたことで大変充実した研修日程となった。この場を借りてお礼を申しあげたいと思います。

8. 参考～研修記録～



以上